

## 第2講 まさか自分が大腸がん・・・！

質問内容	回 答
<b>①大腸がんの特徴について</b>	
大腸がんの自覚症状はどのようなものがありますか。	肛門に近い部位では、血便や排便障害があります。もっと口側の病変では症状が出ないことが多く、貧血などで見つかる場合があります。
大腸がんの発生要因はどのようなものがありますか。生活の注意点はありますか。	生活習慣と関わりがあるとされています。喫煙、飲酒、肥満により大腸がんが発生する危険性が高まります。 がん全般の予防には禁煙、節度のある飲酒、バランスの良い食事、身体活動、適正な体形の維持、感染予防が有効であることが分かっています。 運動は大腸がんの予防に効果的であることがほぼ確実であるといわれています。食物繊維やカルシウムの摂取も大腸がんの予防に効果的である可能性があります。
大腸がんの発生場所によって、病気の深刻さは違いますか	がんの発生部位によってがんの悪性度は大きく異なりません。肛門に近い部位に発生した場合、人工肛門をつくる可能性もあります。
<b>②治療・手術について</b>	
ロボット手術が希望出来ない場合は、どのような時ですか	腫瘍のサイズが大きい場合や、何度も開腹手術歴がある患者さんなどです。
ダヴィンチ手術をやっている病院でも保険適応と保険外診療のところがあるのでしょうか	すべて保険適応です。
どのような時に人工肛門をつくるのですか。	切除部位が肛門に近い場合は永久人工肛門になります。吻合部の安静を保つ必要があり、一時的に人工肛門となる場合もあります。
手術の合併症が生じる確率はどれくらいですか。	それぞれの合併症により頻度は違います。また手術を受ける患者さんのもともとの併存症にもよっても、合併症のリスクは異なります。
手術の合併症を防ぐにはどうしたらよいのですか。	手術過程では、丁寧な手技であり、術後に患者さん自身にリハビリテーションを積極的に実践していただくことです。 また、手術前の禁煙や口腔ケアも合併症のリスク低減に効果があるとされています。
手術の合併症はどの様なときに起きるのですか。注意すべき点はなんですか。	手術を受ける患者さん個々で併存症や体力が異なるため、合併症のリスクも異なります。合併症の注意点などは毎回想定して説明しています。
術後のリハビリで歩く・運動することで癒着が減るのは、どの様なメカニズムですか	動くことで、腹腔内での腸管癒着が低減されると考えています。また腸の蠕動も回復して癒着しにくいと考えます。
手術後の後遺症はどのようなものがありますか。	切除部位や手術方法によっても様々です。
<b>⑤その他</b>	
小腸がんは発生しませんか	発生頻度は高くないですが、発生する事はあります。